

industry 産業

市内の中小企業者などを支援し、地域経済の活性化を図ります。

☎新産業創造課（春日庁舎内） ☎74 - 1464



中小企業（従業員50人以下）のみなさんの経営安定と事業拡張などを支援する制度です

丹波市中小企業資金融資制度

平成27年度融資利率：年1.15%（固定）

- 資金使途 / 運転資金・設備資金
- 融資限度額 / 運転資金 1,500万円以内
設備資金 3,000万円以内
- 融資期間 / 運転資金：5年以内
設備資金：10年以内



■取扱金融機関 / 但馬銀行・みなと銀行・兵庫県信用組合柏原支店、中兵庫信用金庫本店・市内各支店、丹波ひかみ農協本店・市内各支店
■その他 / 運転資金の融資において、信用保証協会の保証を付する場合、保証料の3分の1を市が補助します。

丹波市設備投資支援事業補助金

■対象事業

- ①店舗等の新築および改装事業
- ②福利厚生施設の整備事業
- ③合理化施設（30万円以上の機械設備等）の導入事業

■補助率および補助金額
対象事業費の10%以内（上限30万円）
※必ず事業の着手前に交付申請書を提出してください。



がんばる
中小企業者
を応援！

展示会や見本市の出席費用を支援します

販路開拓支援事業補助金制度

中小企業者が販路拡大または販売促進のために、市外で行われる展示会や見本市等への出展、商談等に要した経費の一部を補助する制度を設けています。

■内容 / 市外で行われる展示会等の出展にかかる経費を最大で10万円補助（補助率1/2）

中小企業者の
販路拡大
を支援！



7月7日（火）は

HP

丹波市ノーマイカー通勤重点アクションデー & クールアースデー

マイカー通勤を控え、徒歩・自転車・バイク・相乗り、公共交通機関などを利用しましょう。

ノーマイカー通勤運動に取り組んでいただける事業所、団体、個人を随時募集しています。

☎丹波市クールアースデー実行委員会（氷上庁舎市民環境課内） ☎82 - 1290

丹波市新エネルギー普及事業

未来の森づくりシンポジウム ～新環境で森を宝に～

低炭素・循環型社会の重要性を発信し、木の駅プロジェクトについての情報交換・意見交換を行います。

- とき / 7月20日（月・祝）午後1時30分～4時30分
- ところ / 丹波の森公苑 ホール
- 内容 / 丹羽健司氏※基調講演とパネルディスカッション
- 参加費 / 無料

☎NPO法人丹波グリーンパートナー ☎080 - 4821 - 3941、FAX 050 - 5577 - 1718、E-mail: info@grenpa.org
URL: <http://grenpa.org/symposium/entry/>

※丹羽健司氏…
信州大学農学部を卒業後、農業、農林水産省を経て、NPO法人地域再生機構で市民参加型の林地残材の活用システムである木の駅プロジェクトのアドバイザーとして活躍。

HP

就職は丹波市へ 合同企業説明会が初開催

5月28日に、神戸芸術工科大学で、来春卒業予定の学生を対象に、丹波市企業に特化した学内合同企業説明会が開催されました。丹波市からは4社の採用担当者7名が参加し、各社の製品や特徴などを説明、PRしました。

参加した25名の学生は、大学で取得した専門知識や技術が仕事にどう生かせるかなど、熱心に質問していました。

今後は丹波市内で企業見学会を開催するなど、一層の連携を図っていきます。



放水訓練を控え、整列する生徒たち

トライやる・ウィーク 未来の消防士がこの中にいるかもしれません

6月1日から6月5日までを中心に丹波市内で中学2年生が地域の事業所などで職場体験する「トライやる・ウィーク」が実施されました。消防本部では、16名の生徒が整列や礼式の訓練、放水訓練、救助訓練、AED講習など幅広く消防の仕事学びました。煙の中から脱出する訓練では「何も見えない煙の中では脱出するだけで精一杯だった。さらに救助をする消防士はすごい」ととても感心していました。



企業の説明に聞き入る学生たち

未来にける希望のつり橋 新広田橋完成

6月6日に、広田橋（山南町下滝・阿草）が完成し、地元地域の主催で渡りはじめ式が行われました。

広田橋は老朽化が進み、昨年5月から架け替え工事が行われていました。集まった地元住民の人たちは、真新しい吊り橋の渡り心地を確認しながら、笑顔で渡っていきました。



広田橋を渡る地元住民のみなさん

フィリピンから来丹 丹波の防災教育を学ぶ

6月10日に、防災教育の推進を図るためにフィリピンの教育省職員が視察に訪れました。豪雨災害の被災地や前山小学校で、被災状況や被災当時の教員の対応などの説明を受けました。市の災害の教訓や防災教育がフィリピンの子どもたちを守るために役立てられることが期待されます。



豪雨災害地跡で説明を受けるフィリピン教育省の職員